

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501969		
法人名	有限会社 札幌福祉サービス		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条6丁目1番25号		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の心身の状況を察知し、不安や不調なく安心して生活していただけるよう配慮している。

庭で野菜を育て、皆で収穫したり、玄関先に花を飾るなどして、季節感を身近で感じながら楽しく過ごしていただけるよう工夫している。

広報誌「いこい便り」は、各利用者ごとに作成し、家族に本人の様子が具体的に伝わるように工夫している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501969&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年11月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いこいの家」は閑静な住宅街に位置した民家改造型のグループホームで、一般住宅として地域にも溶け込んだ建物になっている。建物内部も手すりなど最小限の設備改築にとどめ、段差や階段などを生活の中でのリハビリとして活かすことで各利用者の身体機能の維持に繋がるように努めている。管理者と職員は、各利用者が心身ともに安定した状態で楽しみや趣味の継続ができるように日々温かなケアに取り組んでいる。前回の外部評価後に作成した目標達成計画の内容にも積極的に取り組むと共に、今年度より日々の生活について利用者アンケートを実施して意向や思いを介護計画にも活かすなど、常に向上心を持って取り組んでいるグループホームである。毎日の申し送りで理念を唱和し、日々のケアの中でも意味を理解したケアが行えるように管理者が声かけすることで、全職員が理解を深め理念を共有して日々実践に努めている。記録類も整備されており、各利用者を把握したより良いケアが行われている。利用者の身体状況に応じて居間に隣接する和室を利用するなど、設備を十分活かして可能な限りグループホームでの生活が継続できるようなケアを行っている。各利用者は職員と笑顔で楽しく会話を交わしながら穏やかな日々を送っている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に読み合わせし、その人らしく安心した生活が送れるような環境づくりを心掛けている。	「地域住民との交流に努め、地域福祉の推進に努める」という地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関や管理室などに掲示している。管理者は日々のケアの中で意味を問いかけたり、定期的実践が伴っているか全職員で再確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時に近隣住民の方と挨拶や会話を楽しんでいただけるよう配慮している。また、町内会の秋祭りに参加し、地域との交流を心掛けている。	町内会に加入し、今年度は秋祭りに利用者と共に参加している。花壇整備や町内清掃に管理者が参加し、内容に応じて来年度は利用者の参加も考えている。昨年クリスマス会には地域の消防クラブの子供達の訪問を受けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、町内会会長、民生委員やボランティアの方に参加していただいている。また、話し合いの内容を町内会の回覧で周知するよう取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年の日程やテーマを決め、2ヶ月ごとに開催している。会議では利用者の状態、外部評価、避難訓練などの取り組みを報告し、意見交換を行っている。	地域包括支援センター職員、介護予防センター職員、町内会長、民生委員、ボランティア、地域消防団、家族代表などが参加して、2ヶ月毎に開催している。今年度は、年度初めに年間の議題を設定して参加者の意見収集に努め、充実した会議が行われている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区の管理者連絡会議に参加し、研修会にも参加している。また、運営推進会議には、地域包括支援センター、介護予防センターの職員にも参加していただき、情報交換、連携を図っている。	市役所や区役所とは事務長が連携を取り、訪問や電話連絡、相談などを随時行っている。保護課職員が来訪した時は管理者が意見交換を行っている。今年度、区が開催したグループホームの勉強会に職員も参加して日々のケアに活かしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、研修などにも参加し、職員間で共有できるように努めている。ベッド柵などを使用している方については、適宜その必要性などの見直しを行なっている。	「身体拘束に関する指針」を作成し、ミーティングや申し送りで再確認している。職員間で拘束のないケアを行うための検討を行っているが、現在危険防止のため、家族と相談の下書面を取り交わし、入眠時30分のみ頭部柵を使用している利用者があり、対応は日々介護記録に記入している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、その内容を共有するようになっている。また、職員の声掛け、利用者の体の痣など身体上の変化にも常に注意を払っている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とする方に活用できるよう、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を基に契約時に丁寧に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、ご家族のほか、本人を交えて対応方針を十分に相談している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族の代表者も加わって、ご意見をいただき、また面会時には気軽に要望等をいただけるような雰囲気作りに努め、出された意向等にはミーティング等で話し合い反映している。	選択式の簡単な利用者アンケートを行い、利用者の要望や思いを把握して日々のケアに活かせるように努めている。家族とは些細なことでも言ってもらえる関係ができており、利用者の思いを家族を通して聴き取ることもある。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、定期勉強会、職員会議のほか、日常会話の中など、様々な機会に職員の意見や提案を聞くように努め、働く意識の向上や質の向上に繋げている。	管理者は定期的な会議や日々の業務の中で各職員の意見を聞き、記録して運営やケアに活かしている。職員も意見や提案を言いやすい環境であると感じている。行事や掲示物など担当を決め、各職員が積極的に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法、安全法を守った労働条件や健康診断をおこなっている。職員の資格取得に向けた支援もおこなっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上に向け、外部研修への派遣、会議等でその報告をし、働きながら学ぶ職場研修などに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内グループホームの合同研修会等や勉強会に参加し、学んだことや感じたことなどを職員会議の中で報告し合っている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談で必ずご本人にお会いし、生活状態や要望、不安を把握するように努め、信頼関係を築くよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族との信頼関係を大切にし、家族の要望や不安等傾聴する機会を作り、サービスに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族の思いや状況等を確認し、医療機関や担当のケアマネージャとも連携し、より良い生活作りに努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食器拭きや洗濯物たたみ等、お手伝いしていただけることは参加していただき、感謝の意を伝えて充実感を感じていただけるよう努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>受診時は同行していただいたり、マッサージ等を受けられる際には、ご本人が安心できるよう傍に付き添っていただく等協力していただいている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族やご友人の面会時は、ゆっくりと落ち着いて楽しく過ごしていただけるよう配慮している。</p>	<p>昔からの知人が訪問する利用者もあり、来訪時にはお茶などを提供し、時には職員も会話に入りながら居室でゆっくり過ごしてもらうように配慮している。希望に応じて好きな物を食べに行ったり、家族の協力の下、馴染みの場所への外出も支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者のその日の状態や利用者同士の関係に配慮し、必要に応じて席順を変えたり会話を促したりする事で、負担を感じることなく交流していただけるよう努めている。</p>		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、移転先の施設や病院等に面会に行くよう努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのかかわりの中で、言葉や行動、表情で、思いや意向を理解するよう努めると同時に、ご家族からも情報を得るように努めている。また、利用者にアンケートを実施し、意向や思いを引き出すよう努めている。	利用開始時に家族に生活歴などを聞きケアに活かしている。言葉での意思疎通が難しい利用者は、対応した時の快、不快などの表情や仕草で判断し、本人の思いに沿ったケアができるように申し送りなどで職員間で連絡を密にしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係者から聴き取るようにしている。生活歴や病歴など、情報収集に努め、介護に活かしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の行動や動作から生活リズムを把握し、個々の力を伸ばしていけるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化する利用者の体調や状態を敏感に察知し、随時その時の状況に応じた対応をおこなっている。	新規利用者の介護計画は1ヶ月で見直しを行っている。定期的な見直しは毎月のカンファレンスを基に3ヶ月毎にアセスメントを行い、計画作成担当者各担当職員が中心になり、全職員で検討して現状に即した計画を作成している。	各利用者の趣味、嗜好など生活面の情報の変化について話し合いは行われているが、定期的な記録化には至っていないので、更に介護計画に活かせるような記録方法に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄、入浴等の日々の様子や発言内容を記録し、現状に即した計画となるよう随時見直している。また、記録物は全員が閲覧し、情報の共有を心掛けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出張マッサージ等、必要な支援は柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園を散歩したり、ホーム内から見える風景を眺めて談笑していただいている。また、地域の方にボランティアとして来て頂いたり、少年消防クラブの子供達の来所など、外部の方々との交流も持っていただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望を取り入れ、希望のかかりつけ医がある方には受診していただいている。また、必要な情報の提供等をおこなっている。	協力医療機関以外のかかりつけ医への受診は可能であり、基本的には家族対応になっているが、状態に変化がある時は職員も同行して医師と直接話し、適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は「ケース記録」に記録している。	

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に利用者の身体的状況を伝え、相談している。また、利用者への注意事項を記録し、全職員が共有するようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切な治療をうけ、早期退院に結びつくよう、ご家族や医療機関との情報交換に努めている。また、職員がお見舞いに向いて利用者に安心してもらったり、その際の利用者の情報を職員が共有するよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時に対応できるよう、ご家族を交えて医師と話し合う体制ができています。	「医療連携体制の確保と重度化対応指針について」の書類を作成し、利用開始時に看取り希望に添えるかどうかわからないが可能な限り事業所で過ごせるように配慮し、利用者の状態変化に応じてその都度話し合っって対応方針を決める旨を説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議等でも話し合い、初期対応の訓練を定期的におこなっている。救命救急士の方に来ていただいて心肺蘇生の訓練を受ける機会を設けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員に来ていただき、非難訓練および通報訓練を受け、消火器の使い方等の指導を受けている。また、近隣の家々に協力をお願いして了解を得ている。	消防署の協力の下、年間2回夜間を想定した避難訓練と自主訓練を実施しているが、利用者や地域住民の参加は今後の課題となっている。今年度は自動火災通報装置を設置し、職員の救急救命訓練受講も計画的に進めている。	定期訓練や自主訓練に、状況に応じて利用者や地域住民に参加してもらい、役割分担を再確認することで、災害時の対応に更に活かされるように期待したい。
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉掛けや対応に配慮している。往診時には、利用者の最近の様子等が記載された往診表を提出することで、プライバシーを重視しながら医師に伝えている。	人格やプライバシーの保護には細かな心遣いをしている。呼び方は、はじめは姓に「さん」付けし、慣れてくるに従ってふさわしい呼び方を慎重に選んでいる。排泄や診療に関する話は声を潜めたり文書で伝えたりと気を使っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やしぐさなどからも、その方の思いを汲み取れるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちや体調に合わせた個性のある支援となるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿えるよう配慮し、季節や気温に応じた衣替えをしている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや食べる力を把握し、おいしく召し上がっていただけるように個々に応じた調理をおこなっている。また、庭の畑から利用者自らが収穫した食材をお出し、食事中的話題にして楽しんでいただいている。	献立は1週間毎に職員が立てるが、食事中など日々の会話の中であるいは利用者アンケートで希望を聞き、取り入れている。寿司の好みが多く、週に1度は出る。個人個人の好みや咀嚼力にも応じている。庭の菜園の作物で楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分、食事をチェック表で確認している。ゼリーや甘味噌などを用意し、本人の好みに応じて栄養を摂取できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。本人の力を考慮し、必要な方には職員が介助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやパットを必要以上に使用せず、本人の様子や時間を考慮してトイレの声掛けをする等し、個々の排泄パターンに合わせてケアしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、適切に誘導することで極力通常の下着に近いものを使用できるように努力している。皮膚症状なども考慮しながら、いったん決めた用品も絶えず再検討してこまめに切り替えている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。下剤を使用する場合は、その日の排便状況や体調を考慮し、適宜分量の調節をおこなっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後の決まった時間から入浴対応をしているが、ご本人の体調や気分等を確認し、無理強いすることなく、意思を尊重している。	日曜日を除く毎日の午後を入浴時間帯とし、日曜日は予備日としている。入浴拒否の人はおらず、むしろ好んで入浴を求める人もおり、体調などを考慮しながら希望に応じて各人週に2回以上入浴できるように調整している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度や温度に注意し、布団類の調整をおこない、安眠していただけるよう配慮している。また、和室にベッドを設置し、利用者の昼寝や休憩に利用している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に処方薬の情報を添付し、いつでも確認できるようにしている。処方の変更や追加があれば、全て記録し、職員全員が内容を把握できる体制ができている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、胡麻すり、折り紙や編み物、塗り絵等、個々の気分や体調に応じて、張り合いや楽しみを感じていただけるような支援をしている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩や買い物の希望に沿うように努め、本人の満足に繋がるようにしている。職員で対応できない部分は家族の協力を得て外出の機会を持つようにしている。</p>	<p>雪のない時期は近隣の大きな公園や遊歩道を散歩し、職員と一緒に買い物に出かけることもある。外出の困難な人や時期には窓を開けて外気を入れたり、玄関先に雪だるまやイルミネーションを飾って外に出る気分をそそるなどの工夫をしている。秋には地域の秋祭りに出かけている。</p>	<p>風物を楽しむような行事の外出機会をもう少し増やす工夫を期待したい。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の状況に応じて、居室内で金銭を保管していただいている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族からの電話等があればご本人に代わっていただき、会話を楽しんでいただいている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内の随所に手すりや滑り止めを設置し、安全に生活していただけるよう努めている。また、庭で季節の野菜を栽培したり、利用者の状態を考慮した上で一緒に庭を見て回ったり、日光浴を楽しんでいただけるよう工夫している。また、冬は庭先に雪像を置いたり、夏は鉢植えを置くなどしている。</p>	<p>大きな個人の屋敷を改造したものであるため、風雅な造りや装飾が随所に見られ、施設らしい雰囲気のない、心豊かに落ち着ける建物である。要所に手すりやすべり止めを設け、あるいは段差を解消している。なお狭い廊下、段差、階段などが残っているが、これをむしろ機能維持やりハビリの目的に活用している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間では利用者同士が楽しく談笑できるよう見守ったり、必要があれば間に入り、ストレスなく過ごして頂けるよう配慮している。居室で過ごしたい意思表示があれば無理強いないで、本人らしい生活ができるよう支援している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、その方らしい部屋づくりができるよう支援している。</p>	<p>住宅改造のため各居室それぞれ配置も室内も雰囲気が異なり、大きな屋敷らしい自然な住まいのたたずまいを残している。使い慣れた趣のある家具が配置され、壁には職員心づくしの写真や装飾などが飾られ、温かい雰囲気を醸し出している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>目配り気配りを常に心掛け、職員の見守りの中で、出来る限り自立して過ごして頂けるよう気を配っている。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム いこいの家

作成日：平成 23年 12月 6日

市町村受理日：平成 23年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	新規利用者の介護計画は1ヶ月毎、既存利用者の計画の見直しは3ヵ月毎に行なっているが、趣味や嗜好など生活面の情報の変化については、話し合いはしているものの記録化されていない。	身体状況だけでなく、趣味や嗜好などの生活面についても、定期的に記録を残す。	三ヵ月毎に行なう介護計画書の見直しと併せて、生活面の変化を記録していく。	1年
2	35	定期訓練や自主訓練を行なっており、地域住民から協力の了解も得てはいるが、利用者や地域住民参加での訓練をまだ行なえていない。	状況に応じて、利用者や地域住民にも参加していただき、災害時の対応に活かす事できるよう、更に地域に密着した訓練を行なう。	利用者の参加については、その時の状況を見計らって、1名でもいいから参加していただく。また、町内会長や民生委員にも参加していただけるよう声掛けを行なう。	1年
3	49	利用者の重度化もあり、外出の機会を多く持てていない。	利用者に、季節の風物を楽しんでいただけるような外出の機会を少しでも増やす。	重度化が進み、外出がなかなか難しい状況ではあるが、施設に隣接した雪印種苗への散歩や、交流も兼ねての近隣の福祉施設への見学など、ちょっとした外出程度でもいいので企画し、実現させていきたい。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。